

令和5年度 江東商業高等学校 年間授業計画（1学年用）

教科：（公民） 科目：（公共） 単位数：（2単位） 対象：（第1学年 A組～ E組）

教科担当者：（A組：串岡）（B組：近藤）（C組：串岡）（D組：近藤）（E組：近藤）

使用教科書：（7実教 公共704『公共』）

教科・科目の目標：

- (1) 考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。
 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点：

【知識・技能】：知	【思考・判断・表現】：思	【主体的に学習に取り組む態度】：主
・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめることができる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力がある。	・よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、国民主権を担う公民として各国民が協力し合うことの大切さの自覚などを深めている。

単元項目	学習内容	評価規準	評価の観点			配当 時数
			知	思	主	
第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 1. 青年期とは 2. 自己形成の課題(1) 3. 自己形成の課題(2) 4. 職業生活と社会参加 5. 伝統・文化と私たち	・青年期の特徴と発達課題、様々な人間の心の在り方について理解し、豊かな自己形成に向けて、他者とともによりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。 ・日本の思想が我が国の風土や伝統、外来思想の影響を受けながら形成されてきたことを理解し、国際社会に生きる日本人としての自己の在り方生き方について多面的・多角的に考察する。	(知) ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通じて、自らの価値観を形成するとともに他社の価値観を尊重することができるようになる存在であることを理解している。 ・自分自身が、自主的により良い公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。 (思) ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他社との共同により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 (主) ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。	○	○	○	5
第2章 人間としてよく生きる 1. 古代ギリシアの人間観 2. 科学と人間 3. 自由の実現 4. 社会を作る人間	・先哲の考えの理解に基づき、公共的な空間における人間としての在り方・生き方について自分の意見を表現することを通じて、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。	(知) ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通じて、自らの価値観を形成するとともに他社の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを理解している。 ・人間としての在り方生き方にかかわる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 (思) ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 (主) ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。	○	○	○	4

1 学 期	定期考査			○	○			
	第3章他者ととも生きる 1. 人間と幸福 2. 公正な社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 個人や社会全体の幸福の調和を目指した、ベンサムとみるの考え方を理解する。 公正な社会の在り方について思索したロールズとセンの主張を理解し、さらに今日の正義についての主張（リパタリアニズム、コミュニティアニズム）について理解する。 	<p>(知)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 <p>(思)</p> <ul style="list-style-type: none"> 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>(主)</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。 		○	○	○	2
	第4章民主社会の倫理 1. 人間の尊厳と平等 2. 自由・権利と責任・義務	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解し、思考実験など概念的な枠組みを通して、個人と社会とのかわりにおいて多面的・多角的に考察する。 	<p>(知)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 <p>(思)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>(主)</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。 		○	○	○	2
	第5章民主国家における基本原理 1. 民主政治の成立 2. 民主政治の基本原則 3. 民主政治の仕組みと課題 4. 世界の主な政治制度	<ul style="list-style-type: none"> 個人の尊重と基本的な人権の保障、法の支配や立憲主義という近代民主主義国家の基本原則を理解し、国民の自由や権利が保障されていることの意義を考察する。 	<p>(知)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各人の意見や利害を公平・公正に調整し、相互の協働のもとで共通の利益の実現をめざすことが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 公共的な空間の在り方などを決定し実現する際、個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理が重視されることについて理解している。 <p>(思)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関係における合意を政治的にいかにして形成することができるか多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>(主)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を基に、民主政治のしくみと課題について主体的に追究し、意欲的に解決しようとしている。 		○	○	○	4
	定期考査			○	○			

<p>第2部よりよい社会の形成に参加する私たち</p> <p>1 現代の民主政治と日本国憲法</p> <p>第1章日本国憲法の基本的性格</p> <p>1. 日本国憲法の成立</p> <p>2. 日本国憲法の基本的性格</p> <p>3. 自由に生きる権利</p> <p>4. 平等に生きる権利</p> <p>5. 社会権と参政権・請求権</p> <p>6. 新しい人権</p> <p>7. 人権の広がりや公共の福祉</p> <p>8. 平和主義とわが国の安全</p> <p>9. こんにちの防衛問題</p>	<p>・日本国憲法の3つの基本原理を踏まえ、平和主義と日本をめぐる安全保障に関する情勢を理解する。</p> <p>・日本国憲法が保障している基本的人権の内容を通して、政治制度とのかかわりについて考察し、個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について理解を深める。</p> <p>・現代社会において、基本的人権を管区住するものとして主張されている新しい人権の内容を理解するとともに、国際社会における人権に関する諸条約の意義を考察する。</p>	<p>(知) ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決すること等を通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。</p> <p>・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、日本国憲法の平和主義について理解を深め、変化する国際情勢の中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに関連しているかについて理解している。</p> <p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>(思) 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>(主) よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、法や規範の意義及び役割、我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	9
<p>第2章日本の政治機構と政治参加</p> <p>1. 政治機構と国会</p> <p>2. 行政権と行政機能の拡大</p> <p>3. 公正な裁判の保障</p> <p>4. 地方自治と住民福祉</p> <p>5. 政党政治</p> <p>6. 選挙制度</p> <p>7. 世論と政治参加</p>	<p>・国民主権を中心とした立法、行政、司法の仕組みと課題を理解し、制度や機構の背景にある民主政治の考え方について多面的・多角的に考察する。</p> <p>・地方自治の仕組みを理解し、地方自治が民主政治の基盤となっていること、地域の課題について考察する。</p>	<p>(知) ・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決すること等を通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。</p> <p>・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成すること等を通して築かれるものであることについて理解している。</p> <p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>(思) 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>(主) よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	7
<p>2学 定期考査</p>			○	○		

期	<p>2 現代の経済社会と国民生活</p> <p>第1章現代の経済社会</p> <p>1. 経済主体と経済活動の意義</p> <p>2. 経済社会の変容</p> <p>3. 市場のしくみ</p> <p>4. 市場の失敗</p> <p>5. 現代の企業</p> <p>6. 国民所得</p> <p>7. 経済成長と国民の福祉</p> <p>8. 金融の役割</p> <p>9. 日本銀行の役割</p> <p>10. 財政の役割と租税</p> <p>11. 日本の財政の課題</p>	<p>・市場経済の機能、金融や財政の仕組みについて多面的・多角的に考察する。</p> <p>・現代の企業の仕組みと特色を理解し、企業統治や企業の社会的責任などについて考察する。</p>	<p>(知)</p> <p>・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。</p> <p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>(思) 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>(主) よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	11
	<p>第2章日本経済の特質と国民生活</p> <p>1. 戦後日本経済の成長と課題</p> <p>2. 転機に立つ日本経済</p> <p>3. 経済社会の変化と中小企業</p> <p>4. 農業と食糧問題</p> <p>5. 消費者問題</p> <p>6. 公害の防止と環境保全</p> <p>7. 労働問題と労働者の権利</p> <p>8. こんにちの労働問題</p> <p>9. 社会保障の役割</p> <p>10. 社会保障制度の課題</p>	<p>・日本経済の歩みを通して、公害、環境保全、雇用と労働問題、少子高齢化における社会保障の課題について、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、多面的・多角的に考察する。</p>	<p>(知)</p> <p>・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。</p> <p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>(思) 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>(主) よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	10
	定期考査			○	○		

3 学 期	<p>3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題 1. 国際社会と国際法 2. 国際連合と国協力 3. こんにちの国際政治 4. 人種・民族問題 5. 軍拡競争から軍縮へ 6. 国際平和と日本の役割</p>	<p>・ 国際社会の変遷、人権、国家主権、国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割について理解し、国際社会が抱える課題を考察する。 ・ 現代の国際紛争の諸要因について理解し、その対立を解消するために、多文化共生の観点から調整し強調することが国際政治に必要とされることを理解する。 ・ 平和主義と国際協調の立場から、日本の安全保障や国際貢献の在り方について多面的・多角的に考察する。</p>	<p>(知) ・ 国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解している。 ・ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 (思) 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 (主) よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>第2章 国際経済の動向と課題 1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場の仕組み 3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. 地域的経済統合の進展 5. 国際経済のつながりと課題 6. 発展途上国の諸課題と日本の役割</p>	<p>・ 国際経済についての基本的な知識を身に付け、グローバル化する経済が抱える課題について多面的・多角的に考察する。また、その課題解決には国際協調や自他の文化や宗教などを尊重する相互理解と寛容の態度が必要であることを理解する。</p>	<p>(知) ・ 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解している。 ・ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 (思) 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 (主) よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○		
合計							66